

大雪山国立公園パークボランティア連絡会の活動について

黒田 忠（大雪山国立公園パークボランティア連絡会会長）

1 国立公園のパークボランティア制度の設立と活動について

日本の国立公園は、日本を代表する自然の風景地として「自然公園法」に基づいて、国の指定を受け管理されています。1934年3月に初めて、瀬戸内海、雲仙、霧島の3つの国立公園が指定されました。2014年には31番目の国立公園として沖縄県の「慶良間諸島国立公園」が誕生しました。大雪山国立公園の指定は、1934年12月で、昨年80周年を迎えました。国立公園におけるパークボランティア制度は1985年に環境省の自然保護教育活動推進事業によるパークボランティアの育成が4地区で行われたのが始まりです。

国立公園等の保護管理、利用者指導又はこれらの活動の一環として行われる各種活動について、広く国民の参加を得ることを通じ、これらの活動の一層の充実を図るとともに、自然保護思想の普及啓発を図ることを目的として設置されました。

全国の25国立公園の40地区において1569名のボランティアが登録され、各地区の特性に応じた様々な活動を行っています。（登録数は平成24年7月20日付資料による）

当会は、1988年10月に当時の環境庁大雪山国立公園管理官事務所（現環境省北海道地方環境事務所・上川・東川・上士幌各自然保護官事務所）が主体となり全道から公募し、3日間の養成研修を受けた58名により1989年4月に「大雪山国立公園層雲峡・旭岳地区ボランティアレンジャー連絡会」として発足、1992年には「大雪山国立公園東大雪・十勝岳地区ボランティアレンジャー連絡会」が発足し、翌年の1993年に両者を併合し「大雪山国立公園ボランティアレンジャー連絡会」と改称し、大雪山国立公園全域をカバーする組織（会員数81名）となりました。平成26年度の登録会員数は100名で活動を行って来ましたが、本年度で発足以来27年となります。

パークボランティアの活動内容は、大雪山国立公園において、利用者に対する自然解説、野生動植物の保護管理・調査、公園利用施設の維持、補修、美化清掃活動等年間活動計画に基づいて活動しています。時代と共に活動内容もニーズに合わせて変化してきており、外来生物（ウチダザリガニ、セイヨウオオマルハナバチ）外来植物（ルピナス、オオハンゴンソウ等）の駆除活動などその活動は多岐にわたっています。

大雪山国立公園は、陸域では我が国で最大の面積を保有する山岳公園です。登山道の総延長も約300kmに及び登山者の踏圧など人為的な影響による登山道の荒廃や近年の地球温暖化の影響による豪雨災害の頻発による登山道の荒廃が問題となっていますが、当会においても近自然工法による登山道修復技術講習会の受講などにより、登山道の修復技術の習得に努めているところです。

2 登山道等の修復ボランティア活動について

昨年参加した、登山道等の補修ボランティア活動について報告します。

○ 美瑛富士登山道修復（協働型維持業務）

日 時：平成26年8月17日 AM7:00～PM15:30

参加者：美瑛山岳会、旭川山岳会、山岳ガイド、PV5名、東川自然保護官等2名、

山のトイレを考える会、行政関係者等 計 36 名

活動内容：美瑛富士登山道の涸沢林道登山口から 4 km 程歩いた洗掘が進んだ登山道

補修を実施しました。36 名が参加し 6 班に分かれ補修資材（角材 7 k g × 2 8 本、鉄ピン 1, 5 k g × 6 0 本）を荷揚げ、洗掘が進んだ地点で段差処理の施工を実施した。施工の仕方については、同行指導して下さった北海道山岳整備の岡崎氏のアドバイスを受けながら、それぞれの場所の水の流れを考えながら、洗掘を防止するための水叩き石の配置や角材の貫入位置の検討、長持ちするための工夫、使える角材が限られているため、周辺の倒木や石を使い、登山者の立場に立った歩きやすい段差処理をめざし施工しました。

新たな階段が十数か所完成しました。後は風雪という匠がより環境になじむように磨きをかけ仕上げてくれることが楽しみです。

今までもトムラウシ山カムイ天井付近の登山道補修の荷揚げ等登山道の協働型維持管理に参加していますが、登山道管理者の予算・人員の慢性的な不足や、管理者の不在登山道等については、今後もこのような関係機関同士での助け合い、連携での地道な手入れが重要になってくると思います。



○ 裾合平登山道修復（テンサー工試験施工）

日 時：平成 2 6 年 8 月 2 7 日

参加者：P V 5 名、東川自然保護官補佐 1 名、北海道山岳整備 2 名 計 8 名

活動内容：北海道山岳整備の岡崎氏を講師にお招きし、裾合平で大雪山国立公園では初めてとなるテンサーによる試験施工を実施しました。テンサーとは、ジオグリッドの一般名称で知られている合成樹脂製の網目状補強材のことです。

施工場所は、裾合平から中岳温泉方向の木道敷設場所で、木道脇の土砂が流出したことで、木道が傾斜していることから、木道脇の土砂の流出を防止するための土留め工として、施工したものです。

テンサーの特徴として

- ・独自の網目構造一体成型により、土、碎石と強固にインターロック

- ・適度の網目構造により土砂の連続性を阻害しない。
- ・軽量で切断、接続が自由であり、設置する場所によって高さ、幅の形状変更が容易
- ・現場発生土砂など広範囲の盛土材が利用できる。
- ・耐酸性、耐アルカリ、耐バクテリア性等においてきわめて強い。
- ・植物の定着性も期待できる。

などの特徴があります。すでに利尻山では使用実績があるものです。

設置の仕方は、

- ・設置する場所を平に整地する。
- ・設置する場所の形状に合わせてテンサーを筒状に丸めて連結し、中に椰子マットを敷く。
- ・テンサーの中に周辺の土砂を詰め充填する。

1か所の設置所要時間は約30分間であった。現場周辺には、充填材としての土砂が豊富にあり、現場調達が容易であった。

テンサーの設置により土留め効果が表れてくれると、洗掘を止め、木道の傾きが押えられ植生復元も期待できます。良いことづくめのように思いますが、今後とも施工箇所の状況については注意深く見守って行かなければなりません。

大雪山の貴重な自然を次の世代に引き継ぐために、私たちがやらなければならない困難な問題は山積しています。

北海道の山は、本州の山に比べて圧倒的に入山者数が少ないということを差し引いてもいまだに野営指定地でトイレが無いところがあるということは、やはり大きな問題であると思います。「山のトイレを考える会」では、早期からこのような問題に真摯に向き合い、着実に成果をあげつつあるということに敬意を称します。

○テンサー工の施工行程



テンサーを筒状にする



椰子マットを中に敷く



色々な大きさの石を入れる



充填する(上から見た画像)